

シニアネットワーク連絡会セッション

Web 方式による対話会の課題と今後の展望
Challenges and Prospects of an Online Dialogue Meeting

(2) 北海道教育大学における Web 対話会について

(2) Web Dialogue Meeting at Hokkaido Uni. of Edu.

*中村秀夫¹¹北海道教育大学

北海道教育大学函館校は、放射線などを専門として学ぶ大学ではなく、環境を学ぶ、理科教員となるということが主目的の大学です。しかし、その中でも、講義として2014年度から「環境と放射線」を実施しています。また、同時期よりHATOプロジェクトの1テーマとして「放射線教育プロジェクト」に加わり理科教員となる学生に向けての放射線教育にも取り組んできています。また、本学のPBL教育の一つとしての「地域プロジェクト」の中でも、放射線教育に関するものが行われるなど積極的に放射線教育を行うことを勧めてきました。

こうした活動の中で、複数の団体・企業のご協力を得て、ワークショップ・講演会・施設見学などを実施してきました。例えば、J-POWERによる“エネルギー大臣になろう”や、霧箱の作成、放射線の計測などの活動を伴うもの、専門家による講演会・勉強会、さまざまな原子力関連施設の見学、近隣の活動（青森未来塾、スカーフクラブ青森サロンなど）の活動に学生を参加させるなど多くの学生に機会を与え学習を続けてきました。

しかし、2020年度はコロナの影響により、それらの活動がほとんど実施できない事態に陥りました。そのため、講演会はZOOMを利用したものとなり、講演をしていただいた方にとっては参加者の反応が見えないなど、対面での講演会とは全く違ったものとなっていました。そのため、何か工夫が必要と感じていました。

このシニアネットワークの皆さんと実施できた対話会については、○事前に多くの質問を受けていただき、それに対する返答を準備していただけたこと、○学生に5-6名に1名のシニアネットワークの方が対話会で対応して頂けたことで、対話の量が確保できたことなど対面で実施する以上のことが得られました。

*Hideo Nakamura¹

¹Hokkaido Uni. of Edu.